

2018年12月6日

2018年/2019年 年末年始（2018年12月23日～2019年1月3日）の旅行動向

**海外旅行人数は過去最高の73.4万人  
旅行への意欲は高く、総旅行人数も過去最高**

**国内旅行人数 2,989.4万人（前年比 +1.1%）**

**海外旅行人数 73.4万人（前年比 +4.3%）**

12/19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1/1	2	3
水	木	金	土	祝	振	火	水	木	金	土	日	月	祝	水	木

調査対象期間（出発日基準）

JTBは、年末年始に出発日基準で12月23日（祝）～1月3日（木）に1泊以上の旅行に出かける人の旅行動向の見通しをまとめました。

この調査は、旅行動向アンケート、経済動向、業界動向や航空会社の予約状況、JTBグループの販売状況などから推計したもので、1969年に調査を開始して以来、今年で50回目となります。

調査結果は以下の通りです。

（表1）2018年/2019年 年末年始旅行動向推計数値

	2018/2019年 年末年始 推計値	前年比	前年増減	2017/2018年 年末年始 実績推計	前年比
総旅行人数(延べ)	3,062.8万人	+1.2%	+35.4万人	3,027.4万人	+1.0%
国内旅行人数	2,989.4万人	+1.1%	+32.4万人	2,957.0万人	+0.9%
海外旅行人数	73.4万人	+4.3%	+3.0万人	70.4万人	+2.8%
国内旅行平均費用	33,000円	+3.4%	+1,100円	31,900円	+3.2%
海外旅行平均費用	214,000円	+3.9%	+8,000円	206,000円	▲0.5%
総旅行消費額	1兆 1,436億円	+5.1%	+553億円	1兆 883億円	+3.9%
国内旅行	9,865億円	+4.6%	+432億円	9,433億円	+4.2%
海外旅行	1,571億円	+8.3%	+121億円	1,450億円	+2.3%
平均旅行日数	3.8日	0.2日	0.2日	3.6日	±0.0日

- \* 旅行人数は延べ人数。平均費用は一人1回あたりの費用
- \* 国内旅行人数は宿泊を伴う旅行者の人数（観光および帰省目的の旅行に限る）
- \* 海外旅行人数は出国者数（業務目的の旅行を含む）
- \* 国内旅行平均費用は、交通費・宿泊費・土産代・食費等の旅行中の諸費用を含む
- \* 海外旅行平均費用は、燃油サーチャージ、旅行先での交通費・宿泊費・食費を含む
- \* 対前年比は小数点第二位以下を四捨五入

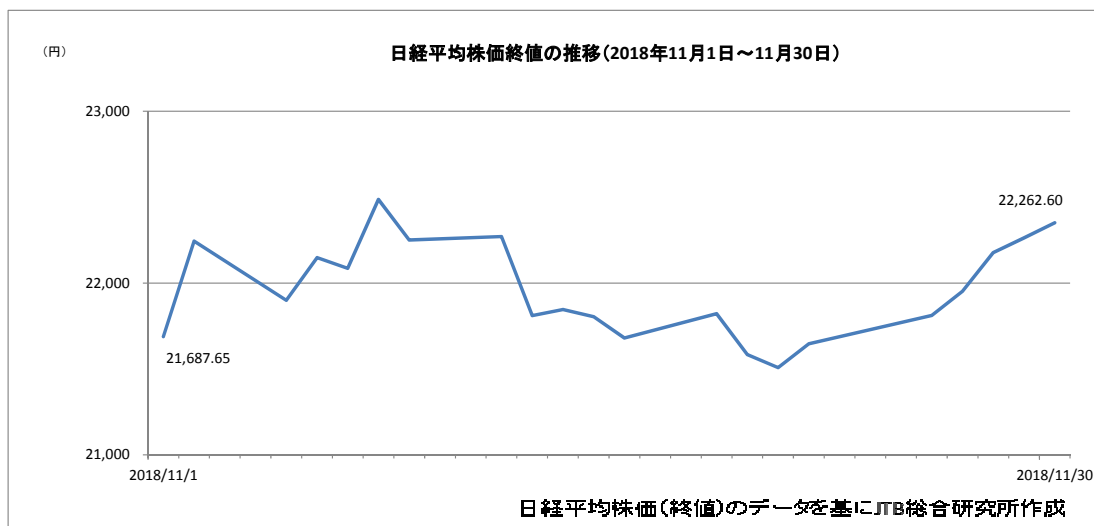
## <社会経済環境と旅行をとりまく環境>

### 1. 社会経済環境

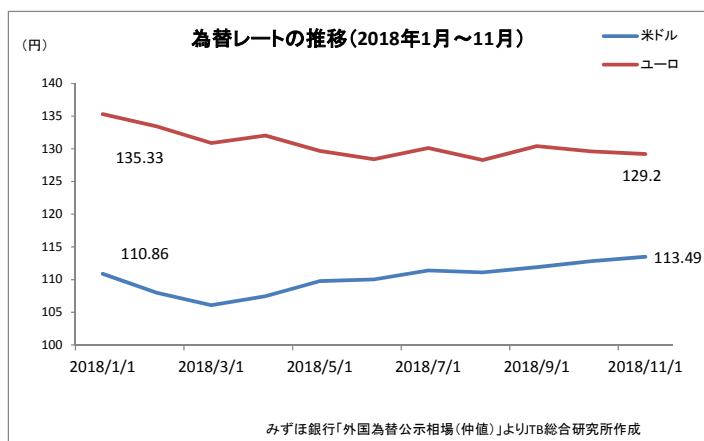
年末年始の旅行に影響する今冬のボーナスは、前年比 3.5%増加し、2年ぶりに前年を上回り、過去最高が見込まれています（11月16日、日本経済団体連合会発表）。また、上場企業の9月中間決算は、過去最高を更新する企業が相次ぎました。しかしながら、米中貿易摩擦への懸念などから、2019年3月期の業績については慎重な見通しが目立っています。豪雨や地震の影響で、7～9月期の国内総生産（GDP）速報値は、実質で前期比 0.3%減少し、2四半期ぶりにマイナスとなりましたが、11月の内閣府「景気ウォッチャー調査」によれば、10月の現状判断DI（注1）は、前月差 0.9ポイント上昇の 49.5で、景気ウォッチャーによる見方は「緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、コストの上昇、通商問題の動向等に対する懸念もある一方、年末商戦等への期待がみられる。」となっています。ここ1か月の株価は、概ね 22,000円前後で推移し、為替レートは、対ドル、対ユーロについては年初以来小幅に変動しています（図1、2）。

（注1）タクシー運転手、小売店の店長など景気に敏感な人への調査結果を指数（DI）化したもの

（図1）日経平均株価の推移（2018年11月1日～30日）



（図2）為替レート(対ドル、対ユーロ)の推移(2018年1月～11月)



## 2. 今年の年末年始の旅行を取り巻く環境と生活者の旅行意向

今年の年末年始の休暇は、暦通りならば、12月29日（土）から1月3日（木）の6日間ですが、1月4日（金）を休めば9連休が可能です。メーカーなどでは1月4日（金）を休みにする企業もあり、例年より長い休暇が旅行喚起につながりそうです。さらに今年は12月22日（土）～12月24日（振）のクリスマス3連休もあり、この時期に旅行をする人も増えると考えられます。

JTBが毎年実施している年末年始の旅行に関するアンケートで「昨年と今年の年末年始の違い」を聞いたところ、「昨年より長く休みが取れそうだ」は、10.4%（昨年差+6.2ポイント）と前年より増加し、「昨年より休みが取れそうにない」は、2.2%（同▲2.0ポイント）でした。収入に関しては、「昨年より収入が増えた」は13.7%（同+1.7ポイント）で、「昨年より収入が減った」は8.7%（同+0.3ポイント）でした。一方、「昨年よりお金をかけずに質素に過ごす予定」は5.5%（同▲1.1ポイント）で、「昨年よりお金をかけて豪華に過ごす予定」は、4.9%（同▲5.3ポイント）で、「豪華に過ごす」は大きく減少しています（表2）。今後一年間の旅行支出に対する意向を聞いたところ、「支出を増やしたい（15.1%）」は前年より1.9ポイント増加し、「支出を減らしたい（24.1%）」は、3.8ポイント減少しました。「同程度（55.6%）」（「単価を減らし回数を増やす（8.8%）」「単価を増やし回数を減らす（5.4%）」「単価も回数も同程度（41.4%）」の合算）は前年より1.7ポイント増加しています（表3）。

今年の年末年始の旅行については、足元の景気は改善され、為替や株価も比較的安定し、日並びもよく、旅行に行きやすい環境と考えられます。またアンケートからも、収入は増え、支出に対する意向も前向きと見られます。

（表2）昨年と今年の年末年始の違い（複数回答）

	%	昨年差
昨年より長く休みが取れそうだ	10.4	+6.2
昨年より休みが取れそうにない	2.2	▲2.0
昨年より遠距離の旅行に行く	4.9	▲1.1
昨年より近距離の旅行に行く	4.4	+1.4
昨年より旅行日数を増やす	4.9	+0.7
昨年より旅行日数を減らす	1.1	▲2.5
昨年と同じ日数の旅行に行く	11.5	▲1.1
昨年より収入が増えた	13.7	+1.7
昨年より収入が減った	8.7	+0.3
昨年よりお金をかけて豪華に過ごす予定	4.9	▲5.3
昨年よりお金をかけず質素に過ごす予定	5.5	▲1.1
特に違いはない	30.6	▲7.7

（表3）今後1年間の旅行の支出に対する意向（調査月ベース）

（ ）は前回との差

	(2018/2019)	(2017/2018)	(2016/2017)	(2015/2016)
支出を増やしたい	15.1 (+1.9)	13.2 (▲2.5)	15.7 (+3.9)	11.8 (+0.8)
同程度	単価を減らし回数を増やす	8.8 (±0.0)	8.8 (+0.9)	7.9 (▲0.4)
	単価を増やし回数を減らす	5.4 (+0.3)	5.1 (+0.9)	4.2 (+0.0)
	単価も回数も同程度	41.4 (+1.4)	40.0 (▲0.3)	40.3 (▲0.7)
支出を減らしたい	24.1 (▲3.8)	27.9 (+3.0)	24.9 (▲1.9)	26.8 (▲1.2)

\* アンケート結果は無回答があるため単一回答でも合計100%にはなりません。

## ＜2018年～2019年 年末年始旅行動向予測＞

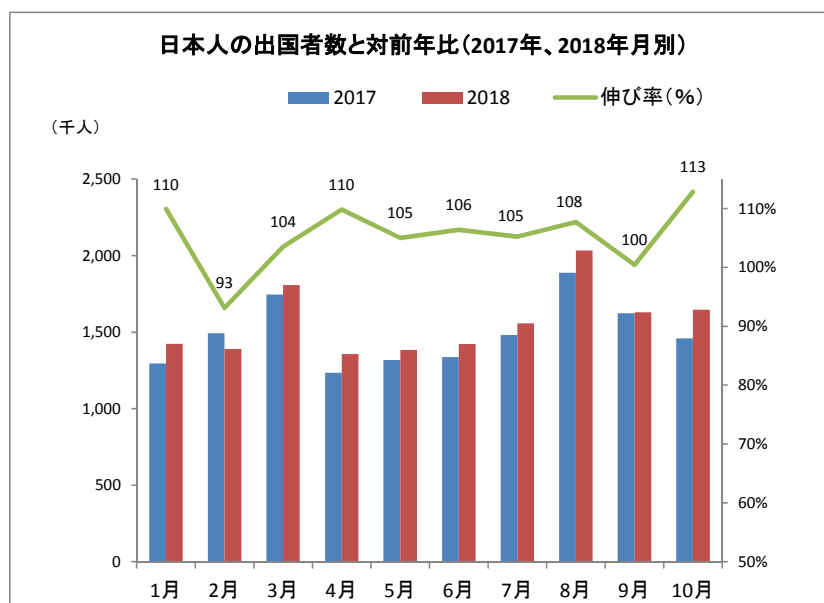
### 1. 海外旅行人数は73.4万人（前年比+4.3%）、海外旅行平均費用は214,000円（前年比+3.9%） 出発日のピークは、12月29日（土）、30日（日）

今年の年末年始の海外旅行人数は73.4万人で、過去最高になると予測します。2017年の海外旅行者数は1,789万人と過去2番目の数字となりました。今年1月～10月までの累計も対前年比5.2%増の1,565万人で推移しており（日本政府観光局11月発表）、年末にかけても好調に推移すると見られ、このまま行けば過去最高だった2012年の1,849万人を超える可能性も考えられます（図3）。燃油サーチャージは、2017年2月に復活し、2018年8月に値上がりしていますが、12月～1月の発券については据え置きとなっています。8月以降も海外旅行者数に影響が出ていないことから年末年始の旅行についても影響は少ないとみられます。為替レートはほぼ前年並で推移しています（表4、表5）。海外旅行平均費用については、燃油サーチャージの上昇と、長い休みを利用してヨーロッパなどの遠距離の旅行に行く人も多いためと思われることから、214,000円（前年比+3.9%）と予測します。

出発日のピークは、12月29日（土）、30日（日）となりますが、近場のアジアを中心に年始の1月2日（水）、3日（木）の出発も多くなっています。方面別の旅行人数予測では、サイパンへの減便が続くグアム・サイパンが減少、韓国や香港、欧州が前年より5ポイント以上増加となっています（表6）。

JTBの海外パッケージツアー「ルックJTB」の予約状況を見ると、ハワイや韓国などでは、年末の出発に加えて、1月2日（水）以降の出発も多く、料金の下がる時期を選んで旅行する人も多そうです。ヨーロッパ方面は引き続き好調で特に北欧などが人気です。アジア方面では、香港・マカオやベトナムが人気となっています。香港・マカオは、10月に香港・マカオ間を陸路でつなぐ「港珠澳大橋」が完成したこともあって注目度が高く、ベトナムは、ベトナム航空が10月から関西空港からリゾート地ダナンへ就航し、福岡空港～ハノイ線が週4便から毎日運航になるなど新しい旅行先への就航や運航便数の増加が続いています。

(図3) 日本人の出国者数と前年からの伸び率



出典：日本政府観光局発表データを基にJTB総合研究所作成

(表4) 燃油サーチャージ (日本航空の場合、往復、単位:円)

航空券発券日	韓国	中国・香港・台湾	グアム	ハワイ	タイ・マレーシア・シンガポール	北米・欧州・オセアニア
14年12月～15年1月	4,000	11,000	13,000	27,000	21,000	42,000
15年12月～16年1月	600	3,000	4,000	8,000	6,000	14,000
16年12月～17年1月	0	0	0	0	0	0
17年12月～18年1月	600	3,000	4,000	8,000	6,000	14,000
18年12月～19年1月	2,000	7,000	8,000	17,000	13,000	28,000

(表5) 各年11月25日の為替レート(単位:円)

(東京外国為替相場/T.T.S 三菱東京UFJ銀行)

	100韓国ウォン	1香港ドル	1台湾ドル	1中国元	1米国ドル	1ユーロ
14年11月25日(火)	10.63	15.22	3.82	19.19	118.07	146.70
15年11月25日(水)	10.90	16.23	3.76	19.36	123.43	131.92
16年11月25日(金)	9.86	15.10	3.56	16.66	114.78	121.56
17年11月24日(金)	10.48	14.70	3.69	17.24	112.47	133.45
18年11月26日(月)	9.98	14.44	3.66	16.28	113.05	128.11

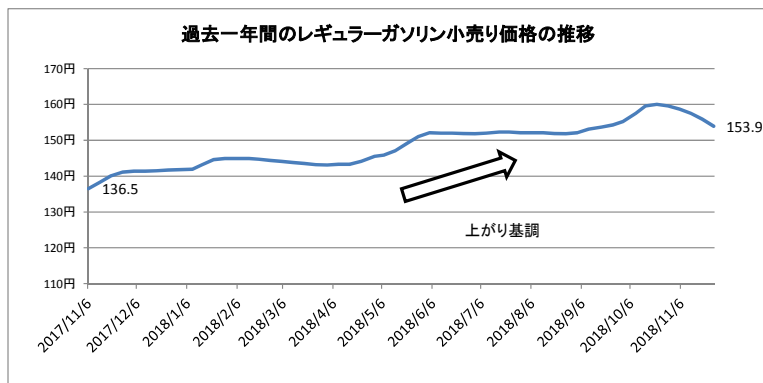
**2. 国内旅行人数は2,989.4万人(前年比+1.1%) 国内旅行平均費用は33,000円(前年比+3.4%)**  
**出発日のピークは、帰省を中心に12月29日(土)、30日(日)、年始の出発も多い**

宿泊旅行統計調査によれば、今年の1月～9月の日本人の述べ宿泊者数は、6月末からの豪雨や地震の影響もあり、前年より3%減少していますが、9月単月の速報値では、3,649万人泊となり、前年同月比0.7%増と回復の兆しが見えています。今年の年末年始は、全体としては休みがとりやすく、ボーナスも増加傾向にあることから、年内や正月明けに旅行したり少し長めの旅行をしたりする人も増えそうです。この間の国内旅行人数は2,989.4万人(前年比+1.1%)、国内旅行平均費用は33,000円(前年比+3.4%)と予測します。

同アンケートによると、旅行日数は、昨年より「2泊3日」が減少し、「3泊4日」や「5泊6日」が増加し、長めの旅行をする人が増えそうです(表12)。利用宿泊施設では、「夫や妻の実家」が減少する一方、「ホテル」が30.6%(昨年差+2.2ポイント)、「旅館」が15.6%(同+0.4ポイント)と増加し、今年は実家以外に泊まる旅行也多そうです(表7)。利用交通機関については、「乗用車」は65.9%と最も多いですが、ガソリンの価格が昨年と比較して上昇しているため、昨年から3.1ポイント減少しています。「高速/長距離バス」は7.5%(同+4.3ポイント)、「格安航空会社(LCC)」は1.7%(同+0.5ポイント)です。また鉄道は、「高速/長距離バス」に続いて「JR新幹線」が19.1%(同+2.6ポイント)と増加しています(図4)、(表8)。旅行先では、「近畿」「北海道」と回答した人が昨年より増えています(表10)。

JTBの宿泊や国内企画商品の予約状況を見ると、クリスマス3連休や年内の平日では、沖縄のビーチリゾートや東京ディズニーリゾート®、軽井沢などが人気です。関東近辺の温泉では料金の下がる1月4日以降の予約も多くなっています。JTB総合研究所が行ったインターネット調査で、今年の年末年始に出かける場所としてどのような場所が気になっているかを聞いてみました。すべての年代で、「食をメインにしたイベント」が最も多くなりました。「温泉」は比較的年齢の高い層に多く、「テーマパーク」は若者が多くなっています。

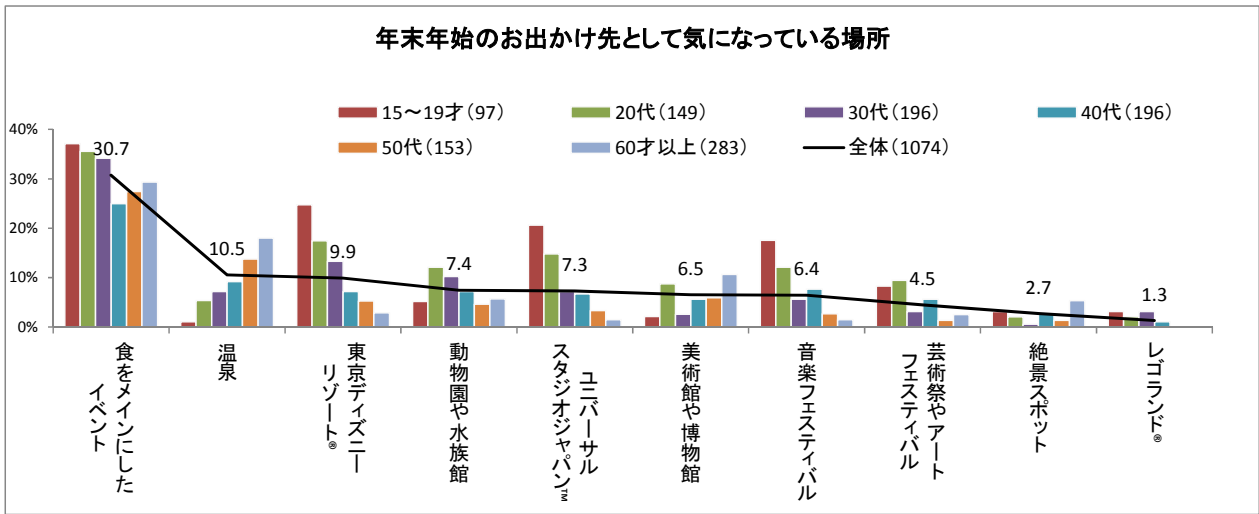
**(図4) 過去一年間のレギュラーガソリン小売価格の推移**



出典：経済産業省「石油製品価格調査」より JTB 総合研究所作成

＜参考＞インターネット調査より

「今年の年末年始に出かける場所として気になっているところ」 （複数回答）



＜生活者アンケート調査方法＞

調査地点： 全国 200 地点、各層に比例配分  
 調査実施期間： 2018 年 11 月 1 日～11 月 13 日  
 調査対象： 全国 15 歳以上 79 歳までの男女個人  
 サンプル数： 1,200 名 (1 地点 6 名×200 地点)  
 調査内容： 2018 年 12 月 23 日から 2019 年 1 月 3 日に実施する 1 泊以上の旅行  
 調査方法： 専属調査員による個別訪問調査 (100%回収)

＜報道関係の方からの問い合わせ先＞

JTB 広報室 03-5796-5833

(表6) 年末年始(2018/12/23~2019/1/3)海外旅行人数 推計

(単位:千人)

	2018/2019	前年比	2017/2018	前年比
<b>総数</b>	<b>734</b>	<b>+4.3%</b>	<b>704</b>	<b>+2.8%</b>
<b>アジア合計</b>	<b>487</b>	<b>+5.4%</b>	<b>462</b>	<b>+3.8%</b>
韓国	113	+10.8%	102	+5.2%
中国	99	+3.1%	96	+3.2%
香港	40	+5.3%	38	+5.6%
台湾	73	+4.3%	70	+2.9%
タイ	43	+4.9%	41	+2.5%
シンガポール	35	+2.9%	34	+3.0%
インドネシア	14	±0.0%	14	±0.0%
マレーシア	14	±0.0%	14	±0.0%
その他	56	+5.7%	53	+6.0%
<b>北米合計</b>	<b>56</b>	<b>±0.0%</b>	<b>56</b>	<b>+1.8%</b>
米国本土	51	±0.0%	51	+2.0%
カナダ	5	±0.0%	5	±0.0%
<b>ハワイ</b>	<b>64</b>	<b>+1.6%</b>	<b>63</b>	<b>+1.6%</b>
<b>グアム・サイパン</b>	<b>28</b>	<b>▲ 3.4%</b>	<b>29</b>	<b>▲ 9.4%</b>
<b>欧州合計</b>	<b>57</b>	<b>+5.6%</b>	<b>54</b>	<b>+1.9%</b>
<b>大洋州合計</b>	<b>29</b>	<b>+3.6%</b>	<b>28</b>	<b>+3.7%</b>
オーストラリア	17	+6.3%	16	+6.7%
ニュージーランド	4	±0.0%	4	±0.0%
南太平洋	8	±0.0%	8	±0.0%
<b>その他(中近東・アフリカ・中南米等)</b>	<b>13</b>	<b>+8.3%</b>	<b>12</b>	<b>+9.1%</b>



<アンケート結果 (表7)～(表14)>

(表7) 利用宿泊施設  
(海外旅行を除く、単一回答)

	%	昨年差
旅館・ホテル・民宿・ペンション	50.3	+2.8
ホテル	30.6	+2.2
旅館	15.6	+0.4
民宿・ペンション・公営施設等	4.0	+0.2
実家	38.7	▲ 6.9
夫や妻の実家	28.9	▲ 11.0
単身赴任で家に戻る	0.6	+0.6
独身で親元に戻る	9.2	+3.6
友人・知人の家	3.5	+0.9
その他	7.5	+4.3

(表8) 利用交通機関  
(海外旅行を除く、複数回答)

	%	昨年差
乗用車	65.9	▲ 3.1
JR新幹線	19.1	+2.6
JR在来線・私鉄	8.1	▲ 3.9
航空機	10.4	▲ 1.6
従来の航空会社	8.7	▲ 2.7
格安航空会社(LCC)	1.7	+0.5
高速/長距離バス	7.5	+4.3
貸切バス	0.6	▲ 1.3
フェリー・船舶	0.6	▲ 0.1

(表9) 同行者  
(海外旅行を除く、単一回答)

	%	昨年差
家族づれ	68.8	▲ 2.1
子供づれ(中学生まで)	39.9	+3.8
夫婦のみ	10.4	▲ 3.5
それ以外(母娘、三世代等)	18.5	+2.0
家族と友人・知人	6.4	▲ 1.2
友人・知人	11.0	+3.4
団体(職場など)	0.0	±0.0
ひとり	12.1	+3.9

(表10) 旅行先  
(海外旅行を除く、単一回答)

	%	昨年差
北海道	6.9	+1.9
東北	10.4	▲ 0.4
関東	21.4	▲ 2.0
甲信越	9.2	+0.4
東海	13.3	▲ 0.6
北陸	3.5	+0.9
近畿	16.2	+2.9
中国	4.0	▲ 3.5
四国	2.9	+1.0
九州	10.4	+0.3
沖縄	1.7	▲ 0.8

(表11) 旅行目的  
(複数回答)

	%	昨年差
毎年恒例なので	45.7	▲ 3.1
実家で親族や友人と過ごすため	33.5	+1.9
家族一緒に過ごすため	27.2	+5.0
この時期しか一緒に旅行出来ないから	13.3	+2.5
温泉やリゾートでゆっくり過ごしたい	9.8	▲ 9.8
この時期しか長期の旅行が出来ない	9.8	+6.7
自然や風景を楽しみたい	8.7	▲ 5.3
美味しいものを味わいたい	7.5	▲ 2.0
テーマパーク等を楽しみたい	7.5	+3.1
家に居てもつまらないので	5.8	▲ 0.5

(表12) 旅行日数  
(海外旅行を除く、単一回答)

	%	昨年差
1泊2日	35.8	+1.0
2泊3日	25.4	▲ 4.9
3泊4日	19.1	+1.4
4泊5日	5.2	▲ 1.8
5泊6日	5.8	+2.0
6泊7日	1.2	▲ 0.1
7泊8日	2.3	+1.7
8泊以上	4.6	+1.5

(表 13) 旅行の出発日【最も遠くへ行く旅行】  
(海外旅行を除く 単一回答)

	%	昨年差
12/22(土)以前	8.1	+4.3
12/23(祝)	3.5	▲ 0.3
12/24(振)	1.2	▲ 0.7
12/25(火)	2.3	+1.0
12/26(水)	5.8	+3.9
12/27(木)	2.3	▲ 0.2
12/28(金)	6.4	+0.7
12/29(土)	17.3	+5.9
12/30(日)	14.5	▲ 5.8
12/31(月)	13.9	▲ 4.5
1/ 1 (祝)	6.9	▲ 5.1
1/ 2 (水)	9.2	+0.4
1/ 3 (木)	8.1	+0.5

(表 14) 旅行に行かない理由  
(複数回答)

	%	昨年差
年末年始はいつも家でゆっくりする	55.7	+5.3
年末年始は混雑するから	37.2	+4.1
年末年始は旅行費用が高い	23.5	+2.3
仕事などで休暇が取れない	19.7	+1.0
親族が近くに住んでいる	16.1	+1.6
なんとなく行く気にならない	11.5	+1.3
家庭の事情で家を離れられない	7.9	▲ 0.6
家族など同行者と休みが合わない	7.8	▲ 0.3
家計の制約があるから	7.5	▲ 0.9
旅行以外にやりたいことがあるので	6.5	+0.6
健康上の理由で	5.7	+1.6
昨年より家計が苦しくなった	4.9	+1.1
今後の生活が不安だから	2.9	▲ 0.1
ボーナスが減ったから	0.5	▲ 0.5
カレンダーの日並びが悪いから	0.2	▲ 0.3
自身や親族等が地震や風水害等で被災したから	0.2	+0.2

\* アンケート結果(表7)～(表 14)は無回答や小数点以下の端数処理のため単一回答でも合計100%にはなりません。

(表 15) 2000 年～2018 年 年末年始(12/23～1/3)発表数値の推移 \* 調査開始は 1969 年

	旅行人数(万人)			一人あたりの旅行費用 (円)		総消費額 (億円)	旅行日数 (日)
	総数	国内旅行	海外旅行	国内旅行	海外旅行		
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年増減	
2000/2001	2,988.5	2,923.0	65.5	36,766	223,284	12,209	3.5
	108.4	107.8	142.1	108.2	100.5	119.3	▲0.2
2001/2002	3,022.7	2,972.7	50.0	37,216	216,927	12,148	3.7
	101.1	101.7	76.3	101.2	97.2	99.5	+0.2
2002/2003	2,925.4	2,865.3	60.1	35,390	225,170	11,494	3.9
	96.8	96.4	120.2	95.1	103.8	94.6	+0.2
2003/2004	2,929.6	2,871.0	58.6	34,576	224,940	11,245	3.7
	100.1	100.2	97.5	97.7	99.9	97.8	▲0.2
2004/2005	2,935.8	2,873.9	61.9	34,472	195,923	11,120	3.6
	100.2	100.1	105.6	99.7	87.1	98.9	▲0.1
2005/2006	2,993.1	2,930.3	62.8	34,093	199,449	11,243	3.8
	102.0	102.0	101.5	98.9	101.8	101.1	+0.2
2006/2007	3,004.8	2,940.0	64.3	34,160	210,510	11,397	3.8
	100.4	100.3	102.4	100.2	105.5	101.4	±0.0
2007/2008	2,991.1	2,930.3	60.8	34,210	217,700	11,348	3.9
	99.5	99.7	93.8	100.1	103.4	99.6	+0.1
2008/2009	2,982.3	2,923.4	58.9	33,610	227,400	11,165	3.7
	99.7	99.8	96.9	98.2	104.5	98.4	▲0.2
2009/2010	2,915.5	2,859.2	56.3	32,330	194,400	10,338	3.6
	97.8	97.8	95.6	96.2	85.5	92.6	▲0.1
2010/2011	2,973.6	2,908.1	56.9	31,140	203,100	10,324	3.5
	102.0	101.7	101.0	96.3	104.5	99.9	▲0.1
2011/2012	2,964.9	2,899.4	65.5	30,670	201,800	10,214	3.6
	99.7	99.7	115.1	98.5	99.4	98.9	+0.1
2012/2013	2,992.7	2,924.6	68.1	30,800	207,000	10,418	3.8
	100.9	100.9	104.0	100.4	102.6	102.0	+0.2
2013/2014	3,053.0	2,983.1	69.9	32,000	217,000	11,063	3.8
	102.0	102.0	102.6	100.4	104.8	106.2	±0.0
2014/2015	3,052.6	2,987.0	65.6	32,000	222,000	11,014	3.8
	100.0	100.1	93.8	100.0	102.3	99.6	±0.0
2015/2016	3,058.5	2,996.0	62.5	34,200	217,000	11,603	3.8
	100.2	100.3	95.3	107.0	97.7	105.3	±0.0
2016/2017	2,998.5	2,930.0	68.5	30,900	207,000	10,472	3.6
	98.0	97.8	109.6	90.4	95.4	90.3	▲0.2
2017/2018	3,027.4	2,957.0	70.4	31,900	206,000	10,883	3.6
	101.0	100.9	102.8	103.2	99.5	103.9	±0.0
2018/2019	3,062.8	2,989.4	73.4	33,000	214,000	1,1436	3.8
	101.2	101.1	104.3	103.4	103.9	105.1	+0.2